

固有値と固有ベクトル

Jacques Garrigue, 2016 年 12 月 2 日

固有ベクトル T をベクトル空間 V の線形変換とする.

$$T(\vec{u}) = \lambda \vec{u}$$

をみたす λ を T の固有値という. そのときの \vec{u} を固有値 λ に属する T の固有ベクトルという.

例題 $\vec{u} = \begin{bmatrix} 2 \\ 1 \end{bmatrix}$ が $T(\vec{x}) = \begin{bmatrix} 7 & -6 \\ 3 & -2 \end{bmatrix} \vec{x}$ の固有ベクトルであることを確認せよ. 属する固有値も求めよ.

固有空間 ベクトル空間 V の線形変換 T の固有値 λ に対し

$$W(\lambda; T) = \{ \vec{u} \in V \mid T(\vec{u}) = \lambda \vec{u} \}$$

が T の固有値 λ の固有空間という. $W(\lambda; T)$ の零でないベクトルが λ の固有ベクトルである.

例題 $W(\lambda; T)$ が V の部分空間であることを確認せよ.

T_A を正方行列 A から作った \mathbb{R}^n の線形変換とすると, $W(\lambda; T_A)$ は $(\lambda E - A)\vec{x} = \vec{0}$ の解空間と同じである.

固有多項式 正方行列 A に対し,

$$g_A(t) = | tE - A |$$

を A の固有多項式という. $g_A(t) = 0$ の根を A の固有値という.

例題 $A = \begin{bmatrix} 7 & -6 \\ 3 & -2 \end{bmatrix}$ の固有多項式を因数分解せよ.

定理 5.3.1 λ が T_A の固有値であることが, $g_A(\lambda) = 0$ と同値である.

例 $A = \begin{bmatrix} 0 & -1 \\ 1 & 0 \end{bmatrix}$ とすると, T_A を \mathbb{C}^2 の線形変換とみることができ, A の固有値が複素数になる.

例題

$$A = \begin{bmatrix} 8 & -10 \\ 5 & -7 \end{bmatrix}$$

- (1) A の固有値多項式を求めよ.
- (2) \mathbb{R}^2 の線形変換 T_A の固有値を求めよ.
- (3) T_A の各固有値の固有空間を求めよ.

線形変換の固有多項式 有限次元空間 V の線形変換 T の2つの基に関する表現行列の固有多項式を考える. 基 $\{\vec{u}_1, \dots, \vec{u}_n\}$ に関して $(T(\vec{u}_1), \dots, T(\vec{u}_n)) = (\vec{u}_1, \dots, \vec{u}_n)A$ で, $g_A(t) = |tE - A|$. 同様に, $(T(\vec{v}_1), \dots, T(\vec{v}_n)) = (\vec{v}_1, \dots, \vec{v}_n)B$ で, $g_B(t) = |tE - B|$. $(\vec{v}_1, \dots, \vec{v}_n) = (\vec{u}_1, \dots, \vec{u}_n)P$ とすると, $B = P^{-1}AP$. そのとき,

$$\begin{aligned} g_B(t) &= |tE - B| = |tP^{-1}EP - P^{-1}AP| = |P^{-1}(tE - A)P| \\ &= |P|^{-1} |tE - A| |P| = |tE - A| = g_A(t) \end{aligned}$$

このため, $g_A(t)$ を $g_T(t)$ と書き, T の固有多項式ともいう.

定理 5.3.3 T がベクトル空間 V の線形変換とする. λ が T の固有値であることが, $g_T(\lambda) = 0$ と同値である.

例題 $\mathbf{R}[x]_2$ の線形変換

$$T(f(x)) = f(1 + 2x)$$

- (1) T の固有値多項式を求めよ.
- (2) T の固有値を求めよ.
- (3) T の各固有値の固有空間を求めよ.